

日向市教育研究所

I	研究主題	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-5-1	
II	主題設定の理由	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-5-1	
III	研究目標	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-5-1	
IV	研究仮説	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-5-1	
V	研究組織	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-5-1	
VI	研究の実際			
	1	キャリア教育研究班	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-5-2
	2	英会話科研究班	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-5-6
○	引用・参考文献	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-5-10	
○	研究同人			

研究主題

児童生徒が意欲的に取り組み、確かな実践力を身に付ける学習指導の在り方 ～キャリア教育の視点を生かした学習指導の工夫改善を通して～

主題設定の理由

日向市では、平成17年3月に「日向市小中一貫教育基本計画」並びに、学校教育推進のための基本方針である「ひゅうが学校教育プラン」を策定し、「学力向上」や「豊かな心の育成」などを推進しながら、小中一貫教育に取り組んできた。

この施策を受け、本研究所では、平成19・20年度には、義務教育9年間を見通した教育課程の工夫など、ソフト面の連携システム開発を中心とした研究に取り組んだ。平成21年度からは、その検証のための国語科、算数・数学科の授業研究を中心とした実践的な研究に取り組み、教材分析の仕方や発問の工夫、話し合い活動の充実など、学力向上に資する授業の在り方について研究を深めることができた。

また、国際貿易港を有し、電子部品や医療器具等の生産において世界的なシェアを誇る企業が集積する本市において、理数教育の充実・外国語教育の充実が求められている。

そこで、平成24年度から理科と英会話科に絞り研究を行い、理科においては科学的な見方や考え方を身に付けさせること、英会話科においては英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを図ろうとする児童生徒を育てることに取り組んでいる。

昨年度より、これまでの研究を踏まえ、キャリア教育については、学ぶ意味に気付くことができる学習活動の工夫改善に、英会話科については、実践的コミュニケーション能力の育成をめざし、取り組んでいる。

本研究所は、小学校と中学校の教員が一緒になって研究を進め、研究授業及び授業研究会の際は、研究員以外の教員にも参加を呼びかけ、小・中学校から多数参加している。この研究の進め方は、本市における小中一貫教育を推進する上でも大変意義深い。

研究目標

学習指導要領の趣旨を生かした、実践力向上に資する授業の在り方について究明する。

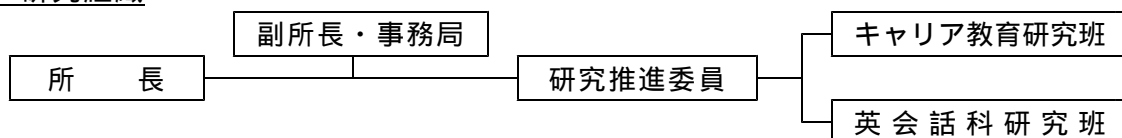
キャリア教育の視点を生かし、アクティブラーニングを意識した学び合いの学習を通して、学ぶことの意味を感じさせながら、児童生徒の確かな実践力を身に付けさせる学習指導の在り方

英語に慣れ親しみながら、実践的コミュニケーション能力を育成する英会話科学習の在り方

研究仮説

小・中学校において、キャリア教育の視点を生かした授業、学習指導要領の趣旨を生かした授業を展開すれば、児童生徒が学習に意欲的に取り組み、確かな実践力を身に付けることができるであろう。

研究組織



VI 研究の実際

1 キャリア教育研究班

我が国の社会は、グローバル化や情報化、少子高齢化など急激に変化し続けてきている。これに伴い、21世紀を生き抜くための力を育成するために、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力の育成等が求められている。

こうした中、平成23年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」の必要性が示されている。この社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力は「基礎的・汎用的能力」として、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの観点において、その内容が示されている。

これを受け、宮崎県キャリア教育ガイドラインにおいて、「自立した社会人・職業人の育成」を目標に、小・中・高の縦の連携や地域・家庭・保護者・企業等との横の連携を図りながら、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動が求められている。さらに、日向市キャリア教育支援センターの「日向の子どもたちの未来づくりプロジェクト」においても、「学ぶ意欲を高め、『生きる力』と『学力』を向上させること」を目標に、企業、学校、家庭・地域が一体となってキャリア教育を推進していくことが掲げられている。

そこで、本研究班では、アクティブラーニングを意識した学び合いの学習を通して、児童生徒に学ぶ意義や将来への見通しをもたせながら、学習活動に取り組みせたり、キャリア教育の視点で教育活動を実践したりすることで、児童生徒の学ぶ意欲を高め、生きる力や学力の向上を図るための研究を進めていくこととする。

(1) 研究主題

学ぶ意欲と将来への見通しをもち、たくましく社会を生き抜く児童生徒を育てる日向市ならではのキャリア教育の在り方の研究

～総合的な学習の時間におけるアクティブラーニングを意識した学習活動の工夫を通して～

(2) 研究の仮説

総合的な学習の時間において、キャリア教育の視点に立った学習指導過程及びアクティブラーニングを意識した学習形態の工夫、日向市の人的素材の活用を図れば、児童生徒は「みんなで学ぶことは楽しい」ことを実感し「学ぶ意欲と将来への見通しをもち、たくましく社会を生き抜く児童生徒」の育成が図れるであろう。

(3) 研究内容

ア 主体的な学習活動と年間指導計画一覧表の活用

(ア) アクティブラーニングを意識した授業づくり

(イ) 年間指導計画一覧表の活用

イ 学習指導過程の工夫

ウ キャリア教育支援センターとの連携

(4) 研究の実際

ア 主体的な学習活動と年間指導計画一覧表の活用

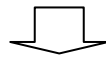
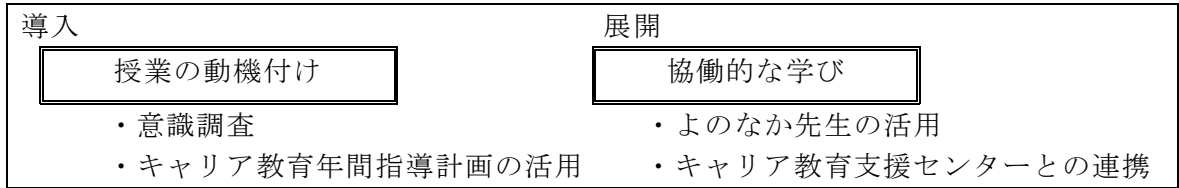
(ア) アクティブラーニングを意識した授業づくり

これからの学習スタイルは、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、主体的に問題を発見し、解を見出していく能動的・主体的な学び（アクティブラーニング）が必要である。キャリア教育においても学びの意味を理解させた上で、児童生徒が生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力をしっかり身に付けさせ、将来の夢や希望を抱く人材を育成していくことが大切である。そのために、児童生徒が相互

に知性を高めていく学びの場を研究する必要がある。

そこで、本年度のキャリア教育研究班では、児童生徒の主体的な学習活動を支援し児童生徒の学びを高める研究を推し進めることにした。そのために、授業における導入の充実を図り、働くことの意味や様々な職業について理解を深め、児童生徒が自ら将来の自分の姿を想像しながら、「知りたい」「やってみたい」と思える動機付けを重要視し、意識調査をもとに授業を組み立てた。

さらに、児童生徒が協働的に学ぶ学習の充実を図るために地域の教育力を積極的に取り入れた。本市キャリア教育支援センターとの連携のもと、授業に協力いただいたよのなか先生を通して、働く意味や意義、地域との関わり、自分の果たす役割などを協働しながら学ぶようにした。



児童生徒の主体的な学び

(イ) 年間指導計画一覧表の活用

全教育活動を通じて、キャリア教育を系統的・組織的に行うためには、計画に基づき実施する必要がある。各教科等で育成したい能力や態度との関わりを明確にし、相互を有機的に関連付けながら、キャリア教育の視点に立った授業づくりや学級経営を進めていくことで、指導の効果も高まっていく。そこで、各教科等における年間指導計画一覧表を活用し、総合的な学習の時間の単元構想段階での有効性を検証した。すると、一年間を通して何を指導すべきかの見通しをもつことができ、事前や事後で指導する各教科や道徳、学級活動など、重点化すべき内容が明確になった。






	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月
主な学校行事等(学年に関する行事)	入学式	運動会				渚フェスティバル むかばき集団宿泊学習		
国語	自分たちの得意な書物について 心のあきき文章に書くよう 漢字の読み方に気をつけよう 漢字の練習① マドカリ イマジネーション	数内訳にならう おたしを選んだ今月のニュース 漢字辞典の使い方を知らう おれ	メモの取り方をくふうして聞こう 文章と説明書を読みくらべよう 漢字の練習②	わたしの考えたこと 「ことわざブック」を作ろう 本は友達 予備	ふしぎ よかったなあ 「今の自分」を話します 「お願いやお礼の手紙」を書こう 文豪の言い方に目を向けよう 漢字の練習③	ごんぎつね 読時にしようせししよう 友の読み広で考えよう 漢字の練習④ くらしの中の和洋	みんなで話し合おう 漢字の練習⑤ みんなで新聞を作ろう	文と文をつなぐ言葉の働きを考えよう 漢字の練習⑥ 予備 世界一美しいぼくの村
社会	私たちのくらしを守る 火事からくらしを守る	私たちのくらしを守る 火事からくらしを守る 事故や事件からくらしを守る	私たちのくらしを守る 事故や事件からくらしを守る くらしをささえる水	住みよいくらしをささえる くらしをささえる水	住みよいくらしをささえる ごみのしよりとすみよいくらし	住みよいくらしをささえる ごみのしよりとすみよいくらし	きょう土を開く わたちのまちに広がる用水路	きょう土を開く わたちのまちに広がる用水路
算数	角とその大きさ ・ふく算、じゅんび運動 1けたでわるわり算の筆算	1けたでわるわり算の筆算 ◎みんなで話しあいましよう ◎何倍でしょう ・ふく算、じゅんび運動 一徳をこえる数	一徳をこえる数 式と計算の順じよ 折れ線グラフ ・ふく算、じゅんび運動 予備	小数 ふく算 ◎算数の自由研究 予備	面積 ・ふく算、じゅんび運動 2けたでわるわり算の筆算	2けたでわるわり算の筆算 ◎よみとる算数 そろばん ・ふく算 がい数とその計算 ◎果敢もりを使って ◎どんな計算になるのかな	算数の計算のまとめ 計算・平方と四角形 ・ふく算、じゅんび運動予備	小数×整数、小数÷整数 ◎もとの数はいくつ
道徳	マナーの球技 不思議なぼくの気持ち (はきき山)	私の家の「しつけ」 ほべえざくら かがおでないさつ ぼくの部屋	雨のバス停留所で 石屋大好き、さかなクン 日本はどんな国? おばあさんのおむかえ	ともだち 富士山を教え一田部井淳子	「正直」五十円分 フィンガーボール ぼくの生まれた日 和がし屋さんの写真	不思議の不思議 貝がら 見えぬ名札 セゾンとえいい	絵はがきと切手 かべで完成だど雨がある	パンダがシシヤから来たシシヤの着 かべにつけた手のあと おばあちゃんはじめまして
特別活動	1年生になって 係りを決めよう	勉強の仕方(学習技能表) あいさつ(SST) 話し合い活動 話し合い活動(遠足に向けて)	おやつについて考えよう 話し合い活動 友達のよいところ 自分の夢を紹介しよう	1学期を振り返ろう 夏休みの計画	係りを決めよう わたしの得意なこと(SST) 男女仲良く	家庭での学習 私のおすすめの本 話し合い活動	むし歯予防 仲間を誘い方(SST) 約束を守る	お楽しみ会をしよう 2学期を振り返ろう 冬休みの計画
ふるさと(総合的な学習の時間)	(ふるさとのそとについて調べよう) 1 オリエンテーション(1) 2 石田川見学の計画を立てよう(1) 3 ホタルについて不思議に思ったことを調べよう(1) 4 調べたことを発表しよう。(2)				(ふるさとの川の様子を調べよう) 1 石田川水質検査に行く計画を立てよう。(1) 2 石田川水質検査の結果をまとめよう(2) 3 石田川を守るために自分たちができることを発表しよう。(2)			

【第4学年の年間指導計画一覧の例(一部省略)】

イ 学習指導過程の工夫




(ア) 中学校(第3学年)におけるキャリア教育の視点を生かした授業づくり

核となる体験活動を「よのなか教室」として、よのなか先生を招き、総合的な学習の時間で「将来のまちづくりと自分の役割」について指導を行った。それぞれの視点から地域の特色を知り、将来のまちづくりについての課題を発見することができた。また、地域人としてどのような活動に取り組めばよいか考え、実践していこうとする姿が見られた。実際の指導の流れは以下の通りである。

月	時数	主な学習内容及び学習活動	学習活動の様子
5	3	美々津の町並み保存地区をスケッチしその良さや美しさを再発見させ、郷土を愛する心を養う。	 <p>全校生徒による町並み保存地区のスケッチ大会</p>
6	2	「日向市における将来のまちづくりと自分の役割」について見通しをもつ。	
7	2	日向市の特色を知り、日向市の将来についての課題を発見する。	 <p>よのなか先生として防災推進課の職員を招いた。</p>
9	1	日向市民として、どのような活動に取り組めばよいか考える。	
10	1	よのなか先生を招き、まちづくりについての具体的な取組を知る。【防災】	 <p>よのなか先生として社会福祉協議会の職員を招いた。</p>
11	1	よのなか先生を招き、まちづくりについての具体的な取組を知る。【福祉】	
	2	企業による出前授業で地元の企業の取組とそこで働いている方の話を聞く。	
	1	よのなか先生を招き、まちづくりについての具体的な取組を知る。【観光】	
	1	これまでによのなか先生から聞いた話をもとにして将来のまちづくりと自分の役割について考える。(研究授業)	 <p>よのなか先生として観光振興課の職員を招いた。</p>
1	地域ボランティア活動を行う。		
12	2	地域の県指定無形文化財保持者の指導を受け、卒業証書用の和紙作成を行う。	 <p>よのなか先生の話をもとに個人グループ全体の順に学習形態を変えて多面的・多角的に考察させた。</p>
	1	地域で活躍している人の話を聞き、具体的な取組を知る。	
	1	将来の自分の役割について考える。	
1	1	活動を振り返る。	(研究授業)

(イ) 小学校（第4学年）における総合的な学習の時間を軸とした学習指導計画の工夫

総合的な学習の時間を軸とし、他教科との関連を図りながら年間を通して指導した。また、日向市キャリア教育支援センターとの連携を図り、よのなか先生から日向市の環境やそれらに対する市民の思いを学んだ。学習内容及び学習活動を以下のように設定し、郷土愛や自分の将来について考えることができるようにした。

段階 (時間)	学習内容及び学習活動	
導入 5分	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習のめあてを確認する。 ○ めあての確認</p> <p>それぞれの課題について、よのなか先生の話をもとに調べ、わかったことをまとめよう。</p>	<p>アンケート結果 「日向市が好きだ」 とてもそう思う・・・ 3% まあまあそう思う・・・ 40% あまり思わない・・・ 10% そう思わない・・・ 47%</p> <p>他教科との関連 (社会) 暮らしをささえる水 (道徳) 環境を守ることの大切さ</p>
展開 35分	<p>3 富高川の様子について、よのなか先生から話を聞く。 ○ よのなか先生の話聞く。</p> <p>4 話をもとに、課題を解決する。 ○ 話を聞いて分かったことをまとめる。 ○ 未解決の課題についてグループ別によのなか先生へインタビューをする。</p> <p>児童の主体的な活動の場面</p> <p>5 話を聞いて、わかったことを自分なりの言葉でまとめる。</p>	 <p>よのなか先生の話 昔の川の様子やそこでの暮らし</p>  <p>よのなか先生の話 水生生物の生態や環境の変化</p>  <p>児童の主体的な活動の場面</p>
終末 5分	<p>6 本時の学習についてまとめる。 ○ 話を聞いて感じたことを発表し合う。</p>	<p>児童の主体的な活動の場面</p>

ウ 日向市キャリア教育支援センターとの連携

本市では、平成25年8月に日向市キャリア教育支援センターが開所され、日向商工会議所を中核としたキャリア教育の推進が図られている。

日向市キャリア教育支援センターとともに、「日向の大人はみな子供たちの先生」を合言葉に各学校の実態に応じた取組がなされている。キャリア教育支援センターのコーディネーターが、各学校の担当者と計画段階から話し合いを重ね、キャリア教育の全体計画、職場体験学習先の開拓授業づくりのアドバイスなど行っている。

活動の中核であるよのなか先生の授業では、「職業講話」「トイレ清掃に学ぶ会」「大学生・高校生とのパネルディスカッション」などの取組が実践されている。

本市と日向市キャリア教育支援センターとの取組が3年目を迎え、よのなか先生のもつ効果が大きく3つ見えてきている。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 よのなか先生の授業や職場体験学習に向けて、社会人講師と各学校の担当者が打合せを重ねる中で、「先生方の意識や考え方が変わる」ということ。2 企業側としては、若手・中堅社員が児童生徒の前で話すことで、「自分の職業観を見直す機会」になるということ。3 児童生徒は、「普段先生方から聞いていた話が現実のことと符合している」ことに気付き理解が深まることで、学ぶことの意味を感じ始めていること。 |
|--|

このように、日向市キャリア教育支援センターを中核とした取組を重ねることで、学校と企業そして地域社会との連携がより強固なものとなり、児童生徒に「よのなか」を考えさせる環境が整ってきている。また、日向市教育委員会の取組として出前授業も実践されており、市をあげてキャリア教育の推進を図っている。

(5) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 年間指導計画一覧表を活用することで、年間を通した見通しやゴールイメージをもつことができ、各教科等と関連を図ることで体験活動への動機付けにつながった。
- よのなか先生の多様な経験や価値観に触れることで、児童生徒の視野が広がり、将来に向けて学習に取り組もうとする意欲が高まった。
- キャリア教育支援センターを介することで、様々な人材の確保の幅が広がり、打合せ等に要する時間も減り、効率的な学習につながった。
- 年間指導計画一覧表のよさを市内の学校へ周知していくことで、小中の9年間を見通した連携を深めていきたい。
- 教師の意図と、よのなか先生の思いがつながる授業づくりをさらに目指していく必要がある。

2 英会話科研究班

本市では、平成17年7月19日付けで、内閣府構造改革特別区域計画認定書「日向市小・中一貫教育特区」が交付され、平成18年4月に小・中一貫教育校である平岩小中学校がスタートし、教育推進施策の一つとして、1～9学年の9年間を通して、教科としての「英会話科」を開設した。その後、英会話科教科書作成委員会が設置され、平成19年度に教材の大幅改編を行い、平成20年度より市内全小中学校で英会話科がスタートした。

平成25年10月に、『グローバル化に対応した英語教育改革実施計画』の中に、初等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ると発表され、平成32年度より小学校3年から外国語活動、5年から教科として外国語科が全面实施されることが決定した。

英会話科8年目を迎えた本市の児童生徒は、小学校1年から中学校3年までの9年間、学級担任とALTまたはJTEの指導によって英会話を学習している。外国の方々と話すことに抵抗は少ないものの、決まった表現で話すことのみで終始し、つなぎ言葉を使ったり、会話を続けたりすることが難しい。また、対話を通して人との関係をつくり出す力、すなわち実践的コミュニケーション能力を育成する点においても課題がある。そこで、英語で伝え合い、人とつながる楽しさを体験できる授業を実践していくことで本市英会話科の目指す「国際社会に適応できる児童生徒の育成」を図りたい。以上のことから研究主題・副題を次のように設定した。

(1) 研究主題及び副題

英語に慣れ親しみながら、実践的コミュニケーション能力を育成する英会話科学習の在り方
～英語で伝え合い、人とつながる楽しさを体験できる授業を通して～

(2) 研究仮説

英会話科の学習において、実体験がともなうようなコミュニケーション活動を位置付け、英語で伝え合い、人とつながる楽しさを体験できる授業を行えば、実践的コミュニケーション能力を身に付けた児童生徒を育成することができるであろう。

(3) 研究内容

- ア キャリア教育と関連させた授業の在り方
- イ 人とつながる楽しさを体験できる授業
- ウ 夏季休業を利用した取組

(4) 研究の実際

ア キャリア教育との関連させた授業の在り方

本研究所では、キャリア教育との関連を以下のように考える。

(ア) 目的意識とゴールイメージ【自己理解・キャリアプランニング・課題対応】

英会話科の授業においては、単元の初めに英語を使う必然性を感じさせ、最後の姿をイメージさせる。小学校では、英語を通じて異文化に多く触れさせ、広い視野での興味関心を高めていくことをゴールイメージとしている。中学校では、小学校で学んだことを生かして将来を見据え、自分のことを英語で伝えることができる生徒をゴールイメージとしている。

(イ) 多様な人々とのかかわり【人間関係形成】

英会話科では、英語をコミュニケーションのツールとして使って多様な人々との関わりをつくり出すことができる。学習の形態としてはペア、グループ、全体で、友達同士関わり合うことができる。友達や担任、ALTとの英語を通じた交流によって、新たな考えに触れたり考えを深めたりできる。友達に自分のことを伝え、注意深く他者を理解することにもつながっている。

(ウ) 自己の振り返り【自己理解】

授業の活動においては、他者のフィードバックを適宜入れることで自分の気付かないことを気付くことができるようにした。また、授業の最後には、その日にできたことを振り返っている。その時間にできるようになったことを伝え合い、その際に振り返ったことを以前の自分や将来の自分と比べることで自己理解を深めさせるようにしている。

イ 人とつながる楽しさを体験できる授業

実践的なコミュニケーション能力を身に付けるためには、児童生徒が人とつながることに楽しさを感じる事が絶対条件であると考え。そこで、授業の中で人とつながる楽しさを体験できるように以下のように授業の工夫を行った。

(ア) 授業形態の工夫

ペア活動を意図的に設定することで学習効果が高められるようにした。児童生徒が、自信をもって誰とでもコミュニケーションを図る力を段階的につけさせるために、同性、異性、ローテーションという3つの形態を設定した。

(イ) 単元構成の工夫

ねらいとする「段階的に会話を増やしていく」ためには、一単位時間で学習した表現を児童生徒がしっかりと身に付けている必要がある。そのために単元構成の工夫を図り、段階的に会話のバリエーションが増えていくように繰り返し練習していくことで、相手を意識した英会話ができるように指導を行った。

次	主な学習内容及び学習活動	評価規準	時数
1	○ UNIT 8-①の学習 ・ 行事に関わる歌を歌い、外国の楽しいイベントを知る “Let’s go Trick or Treating” “We wish you a Merry Christmas”	○ 外国の行事に興味をもち、楽しんで歌ったり、踊ったりしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 (行動観察)	1
2	○ UNIT 8-②の学習 ・ 交流に向けて質問・紹介内容決定 ・ Events Christmas New year ・ 会話に使う言い方①(自己紹介) My name is ~. Please call me ~. I like ~. I can ~. It’s introduced about ~.	○ これまでに学習した英会話表現を使って、簡単なあいさつをすることができる。 【話す力】(行動観察)	1
3	○ UNIT 8-②の学習 ・ 会話に使う言い方②(行事紹介) This is ~. Do you know ~? Please tell me about ~. Please show me ~.	○ これまでに学習した英会話表現を使って、自分たちの国の文化や習慣について伝えようとしている。 【話す力】(行動観察)	1
4	○ UNIT 8-②の学習 ・ 会話に使う言い方③(相づち) How about you? Really? Wonderful!	○ 相手について尋ねたり、相づちをうったりしながら意欲的に交流しようとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 (行動観察・送信メール)	1
5	○ UNIT 8-②の学習 ・ 外国の方との交流	○ 交流相手の国の文化や習慣について興味をもって聞き、内容を大まかに理解することができる。 【聞く力】(行動観察) ○ 英語を使って簡単なあいさつをしたり、自分の国について紹介したりすることができる。 【話す力】(行動観察)	1 (本時)

【小学校第5学年の単元指導計画】

(ウ) 非言語コミュニケーションの意識化

「自分の話を聞いてもらえている」という安心感を活動の中で児童生徒が実感できるように、スマイル、アイコンタクト、ジェスチャー、リアクション、チャレンジの5点を意識させながら授業を行った。言語で伝えることが出来ない場合も体で表現するなどの非言語コミュニケーションを活用して安心して意欲的に活動に取り組むことができるようにした。

(エ) 相手との意思疎通を実感させるための手立て

中学校では、活動の中で、Oh, really?や Oh, do you? など相手の言ったことを繰り返すことや、つなぎ言葉の言い方を紹介し、相手と意思疎通を英語で図れていることが実感できるように指導を行った。

20mins	5 Communication Activities コミュニケーション活動	★ Q&A Time		
		① 目標表現の一部を変え、自分の将来の希望について英語で考えさせる。 ② インタビューゲームに取り組みさせる。理由を話したり、相づちをうったりして会話をより豊かにするよう促す。	① 例を示しながら、活動のモデルを示す。 ② インタビューゲームの模範を示す。ペアに入り、助言を行う。	① 理由や相づちを加えながら、インタビューゲームに取り組む。 ② インタビューゲームに取り組む。ベルの合図で、座席を一つ移動し、パートナーを変える。
		★ Q&A Time 1 2人1組のペアになり、ジャンケンをする。 2 ジャンケンに勝った生徒から、相手の将来の夢を尋ねる。 3 負けた生徒は目標表現を自分でアレンジし、相手に伝える。 4 つなぎ言葉を使って、1分間対話を続ける。(下線部がつなぎ言葉) A: Hello. B: Hello. What do you want to be in the future? A: I want to be a singer. B: <u>Singer?</u> Why? A: Because I like music. How about you? B: I want to be a nurse. A: <u>Nurse?</u> Why? B: Because I like to help people. A: <u>That sounds nice.</u>		
③ 適宜活動を止め、笑顔やアイコンタクト、ジェスチャーを取り入れるよう助言する。役割を交代して、活動を続けさせる。	③ 非言語コミュニケーションの手本となる。	③ 笑顔やアイコンタクト、ジェスチャーなどを一項目ずつ取り入れながら活動に取り組む。		

【中学校第2学年の学習指導過程】

(オ) ALT の活用

日向市内にはALTが7名在籍しており、各校の教師と一緒に指導を行っている。ALTが入ることで、ネイティブな発音や非言語コミュニケーションに触れることができ、授業の活性化が図られている。また、日向市英会話科の基本的な授業の流れができており、それらをALTとも共有することで打合せ時間の短縮を図っている。

ウ 夏季休業を利用した取組

(ア) 学級担任とALTが連携した英会話科授業の学習指導過程の定着

英会話科の授業を進めるにあたって、学級担任とALTとの連携は不可欠である。しかし、限られた打合せの時間だけでは、授業や活動のねらいを双方が共有できない現状がある。

そこで、昨年度から夏季休業中に、市内の小学校2～3校を抽出し、基本的な学習指導過程の定着や英会話科での担任とALTとの役割分担の共通理解を図るための研修を行っている。

研修の際には、事前アンケートを実施し、各学校で指導者が英会話科の授業を進めていく上で不安となっている部分を取り除くために、その学校のニーズに応じた研修を行った。研修後のアンケートでは、「授業の流し方が分かり、自信をもって英会話科の授業を行うことができるようになった。」や「評価の仕方、ゲームの工夫を知ることができた。」などの肯定的な意見を得ることができた。

児童生徒にとって、より身近なコミュニケーションモデルとなる学級担任が、自信をもって

授業を行える手立てをすることが児童の学習意欲を高める上でも大変重要である。

(イ) 国際交流イベント「ALT と交流しよう」

グローバル化が進む一方で、日常的には英会話の必要性を感じる事が少ない児童にとって、意図的に学習した英語を使ってコミュニケーションを図らなければならない場を設けることは大切である。



そこで、昨年度から夏季休業中に本市教育委員会が国際交流イベント「ALT と交流しよう」を主催し、本研究所が運営に参加している。この交流会では、参加児童とALT がグループとなり、ウォークラリー形式で、様々な英語のゲームに取り組んだ。これらの活動を通して児童は他校の児童やALT との交流を深め、コミュニケーションを広げることができた。参加した児童に、交流会後、アンケートを実施したところ、80%以上の児童が、「学校で勉強したことが役に立った。」と感じており、英会話を学習する必要性や面白さに更に気付くことができたと感じている。

また、「もっといろいろな国の方たちと話をしてみたい。」や「将来は外国に行ってみたい。」など英会話を学ぶ意義を改めて感じ、自分のキャリアプランニングにつなげることができた。

(5) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 非言語コミュニケーションを意識させることで実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことができた。
- 授業や交流イベント等、ALT を多方面で活用したことで児童生徒が生活に即した英会話表現を身に付けることができた。また、学んだことを表現する場の設定が児童生徒の自信につながった。
- スモールステップで単元を構成し、授業を実践したことで児童生徒に確実に力をつけることができた。
- 実体験をともなうような授業を意図的に位置付けたことで、学んだことを自ら生かそうとする姿が見られ、児童生徒に自己の成長を実感させることができた。
- 今後も一貫した指導方法の定着のために職員への研修の充実を図る必要がある。
- 今後、教科として外国語科が実施されるので、日向市の英会話科として国の方針との整合性を図りながら環境整備を進めていく必要がある。
- 引用文献・参考文献
 - 文部科学省 小・中学校学習指導要領解説、小・中学校キャリア教育の手引き
 - 宮崎県教育委員会 宮崎県キャリア教育ガイドライン
 - 日向市教育委員会 日向市英会話科テキスト「WE LOVE HYUGA」指導の手引き
- 研究同人

所長	北村 秀秋 (教育長)	研究員	小牧 祐一 (美々津中学校教諭)
副所長	松葉 貴文 (学校教育課長)	研究員	黒木 雄治 (日知屋小学校教諭)
主任研究員	松本 健市 (東郷学園教頭)	研究員	児玉 智保 (財光寺小学校教諭)
主任研究員	中石 正彦 (坪谷小学校教頭)	研究員	山崎 努 (財光寺南小学校教諭)
副主任研究員	荒武 譲 (大王谷学園主幹教諭)	研究員	梶原 豪績 (寺迫小学校教諭)
副主任研究員	今村 富貴 (東郷学園教諭)	研究員	松下 知世 (日向中学校教諭)
研究員	工藤 透 (富高小学校教諭)	事務局	高森 賢一 (学校教育課長補佐)
研究員	平岡 正臣 (細島小学校教諭)	事務局	湯地健一郎 (学校教育課教育指導係長)
研究員	石本 愛 (平岩小中学校教諭)	事務局	鈴木 重仁 (学校教育課指導主事)
研究員	春田 一樹 (富島中学校教諭)	事務局	本山隆太郎 (英会話科アドバイザー)